

後期授業の形態について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2020年8月31日）

コロナにおける危険を最小限にするためにも、実験や実習以外の対面授業は差し控えていただきたく存じます。

twitter等SNSで大学生の声として、大学生だけはオンラインで辛いとの投稿が話題になったりもしましたが、私としては、小中高と違い、安全に授業を受けられるようにしてくださっている、大学のオンライン授業は大変助かっております。

私のような自宅から通学するものとしては、対面での授業は通学中の感染のリスクが生じる他、毎日マスクをつけて窮屈な電車で通学することに酷いストレスを感じます。実際、お盆で墓参りに電車を利用しましたが、大変居心地が悪く大きなストレスとなりました。学内での感染防止策では、クラスターの発生を抑制することが出来るかもしれませんが、こうした自宅通学の学生の安全を守ることはできません。

マスクや手洗いうがいを励行したとしても、毎日気を払って、窮屈な思いで通学するのは大変つらいです。

そのうえ、対面で行うにしても、友人同士で距離をとり、食事の際も気を付けるとなると、却って気苦労が増えて疲れてしまうと思います。

そして、オフラインでコロナに感染した場合、その感染した個人に生じる不利益があまりにも大きいことが考えられます。

一つは、感染した学生のSNS等での誹謗中傷や、プライバシーが守られなかったり、個人の尊厳が踏みにじられる可能性が高い。

二つ目は、重症化した際、まともに授業が受けることができず、後期の単位を落とし、留年するといった可能性があること。これは、他の学生は恐らくオンラインによる授業に切り替わり、問題なく授業を受けられる形態になるとは思いますが、この個人の損害は計り知れないものと思われます。

三つ目は、友人からの聞いた話ですが、親の立場では、下宿中の学生が感染してしまうと、結局面会謝絶で会えないとはいえ、遠方からでは本人の調子が良くわからないということで、不安で仕方がないとのことでした。

また、オンライン授業については、話に聞く一部の大学とは違い90分しっかりと授業をしてくださる上、課題の量も適切であり、対面での授業の差は特に感じられませんでした。

運動不足や姿勢が固定されることによる健康上の問題は、ストレッチや筋トレ等、個人の対策が可能かと思われます。また、大学がストレッチ等の動画を作成するなどして、この問題は解決できるのではないかと思います。この問題よりも、はるかにコロナに感染することの方が大きな問題かと思われます。

最近では、with コロナとのことで、コロナとどう共生するかを考えるようになってきているようですが、多くの企業のようにテレワークが出来ないから仕方なく出社等は仕

方ないと思います。

ただ、京都大学は、前期のようにオンライン化が可能であることから、わざわざ感染のリスクを伴って、後期授業をオフラインで行うことの必要性を私は感じません。

一時オフラインで感染者が増えた、もしくは校内でクラスターが発生してからオンラインに切り替える…といった方針は上記の理由から、好ましくないと思います。

私としましては、オフラインでの自宅通学のストレス、感染による不利益を考えまして、主にオンラインでの実施を願います。

この状況がいつまで続くのか不鮮明なこともあり、大学関係者の皆様も、たくさんの問題点等を考えて授業の方針を決めかねていらっしゃるかと思いますが、一意見として参考にしていただけると幸いです。

【回答】（回答日：2020年9月3日）

（回答者：教育推進・学生支援部教務企画課）

コロナウイルス感染症が収束しない中での対面授業実施については、賛否の意見が分かれています。御意見のとおり、感染した場合は命の危険を伴うことにもなりかねませんし、身近な方にも大きな影響を及ぼすこともあります。

しかしながら、一方ではオンライン授業のみを履修し、友達ができずに期待していた学生生活も送れないで一人悩んでいる学生も少なくありません。オンライン授業が原因で体調を崩したということもお聞きします。

このような中で、後期科目の対面授業は、コロナウイルス感染に危険を感じる学生には、授業内容を別途「同時配信」「録画配信」でオンライン化することで対応します。詳細は授業出席時に担当教員に確認いただき、御自身にとって安全な方法で履修してください。

また、学生の皆さんに「令和2年度後期の授業実施について」の通知を掲載していますので、御一読ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/coronavirus/documents/200831_1.pdf